

3月の話である。4月から野田中学校で働くことがわかった。それぞれの学校には、学校課題といえるものがある。野田中学校にもそれはある。どんな課題があるのか。さすがにまだわからない。しかし、授業を行うのは、どの学校でも同じである。

3月の末に、初めて野田中学校の校長室に入った。校長職の引き継ぎのためである。いろいろなことを教えていただいた。そのとき、野田中学校が、令和3年度と4年度の2年間、福島市の「読解力向上推進事業」の研究協力校になることを知った。研究指定校は野田小学校である。野田小学校と野田中学校で、子どもたちにリーディングスキルを身に付けさせるわけである。一つの小学校の児童が、そのまま一つの中学校に入学してくるという野田地区ならではの強みが活かされるはずである。

先生方の授業力を向上させるために、どんな手だてを講じようかと考えていたが、引き継ぎの結果、その答えは出た。リーディングスキルである。野田中学校は、リーディングスキルの視点から授業を改善していき、生徒の学力向上を目指すという方向性が定まった。

リーディングスキルとは、汎用的な基礎的読解力である。リーディングスキルテストというものがある。いくつかの例題が世に出ている。

[例題] 次の文を読みなさい。

仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

オセアニアに広がっているのは（ ）である。

- ① ヒンドゥー教    ② キリスト教    ③ イスラム教    ④ 仏教

この問題では、全国の中学生の3人に1人が正解できなかった。文は教科書に出ているものである。すなわち、子どもたちは教科書が読めないのである。音読はできても意味を理解していないのである。教科書は読めるだろうという今までの大前提が崩れてしまった。教科書に書かれていることは理解できるだろうという授業と、そもそも教科書に書かれていることがわかっていないとする授業とでは、進め方がまるっきり違ってくる。

野田中学校の生徒の3人に1人、クラスの1/3が②のキリスト教と答えられないとしたら、どうであろうか。由々しきことである。子どもたちが教科書を読めないのは、読めなくなるような授業を我々がしてきたのだという謙虚な受け止めが出发点である。早急に授業改善が必要となる。

だが、処方箋は簡単ではない。だからこそ、先生方全員で、学校を挙げて、野田小学校と協力しながら取り組むのである。全教科で考えていくべき課題である。中学校卒業段階までに教科書を正しく読めるようにしてあげることが、我々の使命である。